

第 77 号 春号 発行月：令和 5 年 5 月



- もくじ
1. 施設長より新年度のご挨拶
 2. 前事務局長より退任のご挨拶
医師より着任のご挨拶
 3. 支援部長より就任のご挨拶
活動「春を探しに行きました」



新年度のご挨拶

施設長 塩川 智司



徒然草に、「今ひときは心もうきたつものは、春のけしきにこそあめれ」とあります。若葉の爽やかさに心弾ませ、あらたな気持ちになれる春に、新年度のご挨拶を申し上げます。私ごとですが、春、毎年楽しみにしていることがあります。樹に咲く花の移り変わりです。初春、コブシからはじまり、桜、モクレン、ハナミズキ、そしてゴールデンウィークを迎えるあたりには藤が真っ盛りになります。普段は、ひっそり目立ちませんがこの時とばかり咲き誇ります。そして、次第に昼が長くなり、新しくスタートする勢い、明るい日の到来を予感させます。

さて、コロナ禍 4 回目の春、いよいよ新型コロナウイルス感染症が 5 類へ類型変更されます。新型コロナは、2020 年 1 月に国内初めての感染者が確認され、2 月には指定感染症に、2021 年 2 月には「新型インフルエンザ等」に位置づけられました。感染症法上の「2 類相当」の措置が多かった中、無症状者への適応などは「1 類」並みの措置がとられ、国民の生活、社会活動は大きく変化しました。しかし、7 波以降のオミクロン株は、感染力が増強した反面、重症化率が低下、ワクチン接種が進んだこともあり、感染対策が緩和され、政府はこの 5 月 8 日に 5 類へ移行する方針を決めました。

2020 年 4 月の第 1 回緊急事態宣言発出以来、ご家族のご理解、ご協力のもとに、和らぎ苑では重症化リスクの高い入所者ご利用者の命を守るために、施設内ゼロコロナ対策「施設にコロナを持ち込まない」を実施してまいりました。職員には健康管理、家族以外の会合や飲食の自粛など求めるとともに、ご利用者ご家族の面会を中止させていただきました。この期間、入所ご利用者生活の充実のために様々工夫し、活動を企画しました。また感染拡大の中、不十分ながら予約制での面会を再開・継続し、オンライン面会も実施いたしましたが、感染対策の名の下にご家族と入所者さんたちのかけがえのない時間を著しく制限してしまいました。ところが、第 7 波以降のオミクロン株は感染力が格段上がりました。このため職員、職員家族の罹患が相次ぎ、ゼロリスクをご家族に求める意義が薄れ、『ゼロリスク対策』よりも、持ち込まれても拡大させない方針に変更すべき時期がきたと考えます。さらに、感染力が強まった反面、重症化率が減少し、無症状や風邪症状のみの新型コロナウイルス患者が増加しました。本年 2 月の調査によると国民の 42%、5200 万人超が新型コロナウイルスに感染したと推定され、加えてワクチン接種で免疫を確立した集団が約 7000 万人と見込まれており、両群の重複を見込んでも、わが国は集団免疫を獲得した可能性があります。

5 類に類型変更の 5 月 8 日以降、毎日の実数調査はされず、1 週間ごとの定点報告になります。ゴールデンウィーク明け、5 類移行後の感染数が初めて報告されるのは 5 月 19 日です。ご利用者ご家族の大切なつながりはかけがえのないものです。感染の動向が気になるころですが、入所ご利用者の面会解禁に向けて、春の穏やかな日差しが和らぎ苑にあたりますようにお祈りいたします。『和らぎ苑の誓い』より、「和らぎ苑は一つの家族。和で結ばれた大きな家族。そして、ご家族も、ご利用者を支える大切なパートナー。」。今後の感染状況をみつつ、本来の和らぎ苑の姿に戻るため、皆様のご協力のもとにご利用者、ご家族の笑顔を目指したいと願います。

退任のご挨拶

前事務局長 的場 政一



平素より、当施設に対しまして温かいご支援とご理解を賜り、心より御礼申し上げます。私、4月1日付の人事異動で、法人本部へ転任いたしました。

和らぎ苑では、平成28年4月から7年間、利用者様やご家族の皆様、関係各位の皆様にご世話になりました。本来ならば、お一人おひとりに御礼のご挨拶をしなければいけないところですが、紙面を通じた形になりましたこと深くお詫び申し上げます。申し訳ございません。そして、ありがとうございました。

7年間を振り返りますと、私にとっては利用者様を始め、ご家族、職員のみなさん、その他和らぎ苑に関わるすべての方々との出会いはどれも財産になっており、感謝の一言に尽きます。ただ、私が少しでもお役に立てたかと言いますと、甚だ恥ずかしい限りで、お詫びの言葉もございません。今後こそは、法人本部の立場から、和らぎ苑利用者様をサポートさせていただくことを使命として精一杯努める所存です。引き続きよろしく願いいたします。

最後に。後任事務局長の伊丹に対しましても、これまでと変わらぬご支援とご協力、並びにご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

着任のご挨拶

医師 平林 円



私は1991年に西成区花園にあった大阪市立母子センター小児科に就職してNICUで働き始め、病院統廃合により1993年に大阪市立総合医療センターへ移動、1998年には住吉市民病院と主にNICUで働いてきました。2002年に十三市民病院への転勤後は、正期産の赤ちゃんと一般小児を診療してきました。2000年ころから日本全国の新生児室でMRSA院内感染が猛威を振るい、その対策として、赤ちゃんをできるだけ新生児室に集めないように母子同室、母乳育児支援を始めました。2009年にはWHO/UNICEFから「赤ちゃんにやさしい病院」の認定を受けることができました。お母さんへは、「赤ちゃんにはすべてのことを説明してください。何かを変えたいというお母さんから赤ちゃんへのお願いがあるときも（もっと長く寝てほしい、など）赤ちゃんが起きていて落ち着いているときに話して相談してみてください。」などとお話しています。赤ちゃんが元気であれば帝王切開直後から保育器に収容しないでお母さんと一緒にいてもらうなど、小児科医として赤ちゃんの願いをできるだけ叶えるような医療を目指してきました。四天王寺和らぎ苑でも入所者の皆さんやスタッフの皆さんの願いを考えながら、働くよう努めたいと思っています。よろしく願いいたします。

支援部長就任のご挨拶

支援部長 堤 智一



令和五年四月一日より、四天王寺和らぎ苑の支援部長を拝命いたしました、堤智一（つつみともかず）と申します。ご利用者様、ご家族様には平素から大変お世話になっております。私は、四天王寺和らぎ苑開所当初から従事しており、施設の歴史を知る数少ない職員の一人です。最初はポプラで在宅のご利用者様と関わらせていただき、その後入所のご利用者様とも関わらせていただきました。今思えばとても早いこの約二十年でした。この期間、変わったことと言えば、私を含め皆さんが二十年の年齢を重ねたこと、職員、制度、社会が大きく変わりました。そして、今回施設内において支援部が新設されました。今までは施設内の組織として入所、在宅ともに支援と看護が一緒になっていましたが、支援と看護が分かれることでより専門性を発揮し、ご利用者様の生活の質の向上に繋がることを目指していきます。制度では、開所当時は措置制度でしたが、現在は契約制度となり、ご利用者様ご自身がサービスを選ぶことができる時代となりました。私達はその事を念頭におき、施設の使命である「ご利用者様お一人おひとりの人生を宝物、賜のように大切に、お一人おひとりをチームで支える」ことで皆様に選ばれる施設、地域に必要とされる施設になれる様、今後も他職種のチームワークで支援して参ります。これからも、何卒よろしくお願い申し上げます。



春を探しに行きました

寒い冬が終わり暖かい季節、そして新しい1年が始まります。2階フロアではレクリエーション活動で「桜」をみんなで作りました。絵の具を手や足に塗り、ひんやりするのかくすぐったいのか目をまん丸にして驚かれる方が何人か居られました。上手に手形や足形が取れるとニコッと笑顔も見せてくれました。エレベーター前に桜を飾りましたので足を運んで見に来てください。



さて、晴れる日が増え散歩がしたくなる季節になり、皆で近くまで散歩に出かけました。砂利道の「ガタガタ」する音に声を出して笑ったり、外の風景を眺めて散歩をしていると、ある風景に目が留まったのです。それは「満開の桜」です。桜をじっと見つめ、風が心地良いのか気持ちよさそうにされておられました。

発行者：四天王寺和らぎ苑広報委員会

ホームページ

〒584-0082 富田林市向陽台 1-3-21

Tel : 0721-29-0836(代) Fax : 072-29-3916

